

令和3年度 青森県総合学校教育センター
センター研究 【特別活動グループ】

小・中学校特別活動の学級活動における
情報端末を用いた指導に関する研究

令和4年2月

1 研究テーマ設定の理由

特別活動は、これまで「なすことによって学ぶ」ことを方法原理として、各学校において特色ある取組が進められてきました。児童・生徒は特別活動を通じて、協調性や異質なものを認め合う態度を身に付けたり、集団への所属感や連帯感を感じられるようになったりするなど、大きな成果をあげてきました。特別活動は、児童・生徒が学校生活を送る上での基盤となる力を育む活動として、また社会で生きて働く力を育む活動として重要な役割を果たしています。一方、特別活動の指導を行う中で、いくつか課題があげられています。一つは、特別活動の指導を通じて身に付けさせるべき資質・能力を、指導者が十分意識できていない実態があることです。各活動・学校行事が行われていても、指導者が、児童・生徒にどのような資質・能力を獲得させなければならないかを理解していなければ、その効果は半減してしまう恐れがあります。もう一つは、児童・生徒にどのような学習過程を辿らせて資質・能力の向上につなげるのかということ、指導者が十分意識できていない実態があるということです。このような実態を踏まえ、平成29年3月告示の小・中学校学習指導要領においては、特別活動の各活動の内容について、それぞれの項目においてどのような資質・能力を育成するのか、また、どのような学習課程を経て学ぶのかが端的に示されました。本研究においては、今回学習指導要領で示された育成すべき資質・能力を、例示された学習過程を経て児童・生徒が獲得できるように、それらの要素を取り入れた指導計画を作成し、それを情報端末の機能を用いて指導を行うことによって、指導の効果を高めることを目指しました。

2 研究の目的

特別活動の指導における情報端末の活用例については、令和2年9月に文部科学省から示された「特別活動の指導におけるICTの活用について」で、各学習過程における情報端末活用の大まかなイメージを、写真や文字で説明している。しかし授業で実践するにあたっては、より詳細な情報端末の活用方法の説明や指導計画等が必要と思われることから、本研究ではそれらを作成することとした。

3 研究の方法

特別活動で求められる資質・能力を、児童・生徒が身に付けられるように、ロイロノート SCHOOL を使用し、学習指導要領で示された学習過程に沿った指導が行われるような指導資料を作成する。

4 作成者

義務教育課 月足 正亮

5 研究の実際

(1) 学級活動の内容について

学級活動には以下の三つの内容があります。

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(2) 学級活動の学習過程について

学級活動の学習過程については、学習指導要領解説に以下の例が示されています。

学級活動における学習過程（例）

- ①問題の発見・確認
- ②解決方法等の話し合い
- ③解決方法の決定
- ④決めたことの実践
- ⑤振り返り

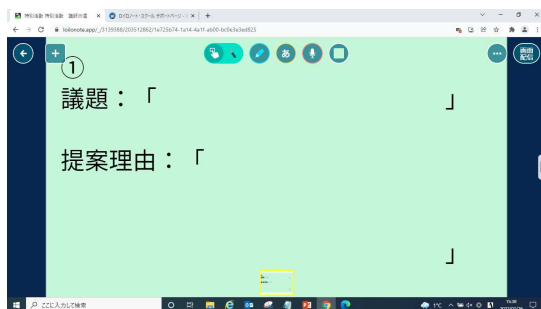
本研究では、上記の学習過程（例）を経て学習が行われるように、各段階において、ロイロノート SCHOOL を使用することを想定した指導計画を作成しました。

(3) 学級活動（1）の指導（例）

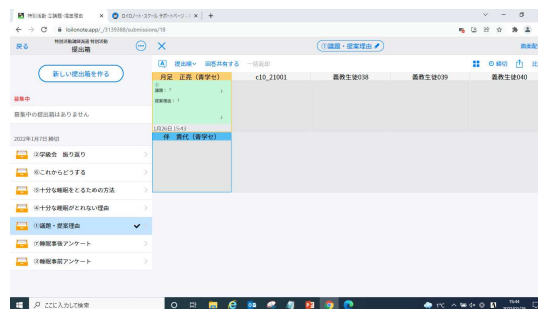
※学級活動（1）・・・学級会を含む一連の活動

①問題の発見と確認

この学習過程では、カード提出機能の活用が考えられます。通常、この学習過程は紙で行われることが多く、配布・記入・回収や回収後の分類作業に時間がかかります。そのことが、この学習過程が行われにくい一因となっているものと考えられます。カード提出機能を活用することで、議題収集と議題選定作業の効率化が図られると考えられます。



議題提案用のカード



議題選定作業時の画面

②解決方法等の話し合い、③解決方法の決定

この学習過程では、カード編集・画面配信機能の活用が考えられます。通常この学習過程は、黒板を使って行われますが、書記の児童・生徒が手書きで行うため、書くのに時間がかかっていました。これをカード編集・画面配信機能を活用することで、記入時間を短縮できることに加えて、似た意見をまとめたり、違う意見を分けたりする操作が簡単にでき、話し合いの記録としても活用することができると考えられます。



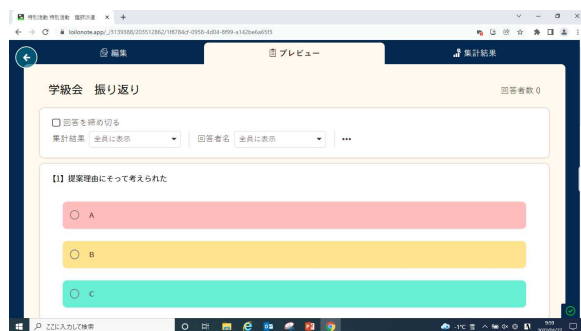
話し合いの記録

④決めたことの実践

この学習過程では、写真・ビデオ機能の活用が考えられます。児童・生徒が、実践を写真やビデオに記録することで、活動前と活動後の自分たち自身の変化を確認したり、実践の成果を客観的に確認したりすることができ、そのことが次の実践への意欲付けになると考えられます。

⑤振り返り

この学習過程では、アンケート機能の活用が考えられます。アンケート機能を活用することで、児童・生徒の自己評価の集計を簡略化することができるとともに、振り返りの記述を学級通信等にコピーして活用することもできると考えられます。



アンケート機能を用いた振り返り

(4) 学級活動 (2) (3) の指導 (例)

※学級活動 (2) (3)・・・健康や進路など、生活上の課題や将来に関わる事柄についての学習

①問題の発見・確認

この学習過程では、アンケート機能の活用が考えられます。アンケート機能を活用

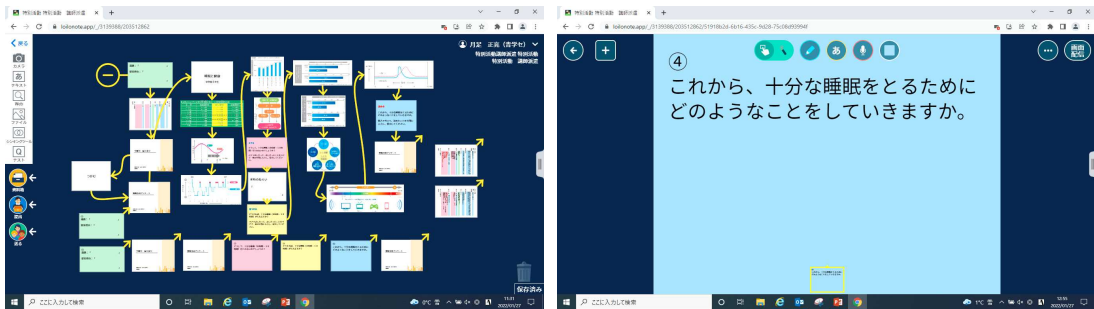
することで、児童・生徒の実態を効率的に把握でき、それをもとに授業を組み立てることで、より実態に即した指導を行うことができます。また、アンケート結果を児童・生徒に示すことで題材を自分事として捉えさせることもできます。



アンケート機能を用いた実態把握

②解決方法等の話し合い、③解決方法の決定

この学習過程では、画面配信機能とカード提出機能の活用が考えられます。画面配信機能を活用することで、指導資料を指導プロセスに沿って提示することができることに加えて、指導資料及び指導プロセスを他の指導者と共有できる利点があります。また、カード提出機能を活用することで、意見収集とその共有を効率よく行うことができると考えられます。



指導プロセスに沿って並べられた指導資料

カード提出機能を使った意見収集

④決めたことの実践、⑤振り返り

この学習過程では、アンケート機能の活用が考えられます。児童・生徒が意思決定したことについて、どのように実践したかを毎日、アンケート機能を活用して記録することは、実践への意欲付けになると共に、取組状況の見える化や、振り返りの記述の学級通信等への活用にもつながると考えられます。



アンケート機能を使った実践の記録

(5) 学級活動(2)「睡眠と健康」に関する指導(例)

以下は、教員向け研修で行った模擬授業の内容です。

①問題の発見・確認

事前アンケート 「あなたの平均睡眠時間は何時間ですか？」

「これまで睡眠不足で困ったことはありますか？」

指導資料「早寝早起き朝ごはんで輝く君の未来～睡眠リズムを整えよう！～」

文部科学省

②解決方法等の話合い

「どうして、十分な睡眠(8時間～10時間)をとれないのでしょうか？」

「どうすれば、十分な睡眠(8時間～10時間)がとれますか？」

③解決方法の決定

「これから、十分な睡眠をとるためにどのようなことをしていきますか？」

④決めたことの実践

実践の記録

「あなたは昨日、何時間寝ましたか？」

⑤振り返り

事後アンケート

「今後、睡眠を十分にとるためにどのような取組をしていきたいか記入してください。」

6 今後の研究について

学級活動(1)については、解決方法等の話合いで使用するカードの説明や留意事項の追加を考えています。例えば「話合いのめあて」を考える場面で、「話合いのめあて」が何かを具体的にイメージできないために、なかなか意見が出ない状況があります。そうした状況を改善するため、「話合いのめあて」のカードに①内容に関すること、②話合い方に関すること、のように具体的に内容を示すことで思い浮かびやすくすることを考えています。他の使用する用語についても、説明や留意事項等を追加していきます。

学級活動(2)(3)については、指導項目ごとの、指導資料の整備を考えています。これまで、睡眠や食育などについての指導資料を作成してきました。今後、学習や進路についての指導資料を作成していこうと考えています。